



片柳中学校だより

片柳

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

さいたま市立片柳中学校

第9号 平成29年11月1日発行

さいたま市見沼区大字御蔵551

TEL 048-683-3173

さらなる高みへ

—飛躍を期待して—

校長 島村 暁

2年前にイギリスでラグビーワールドカップが開始されました。その予選プールで日本代表は、優勝候補の南アフリカ戦の勝利を含めて3勝と活躍し、日本中に大きな感動を残しました。この結果に「これは奇跡だ、歴史的大金星」という評価もありましたが、監督やコーチには、当然の結果という気持ちがありました。なぜなら、監督やコーチを含め日本代表は、前回の大会からの4年間、この日のために周到な準備をしてきたからで、そのことは様々な場面で取り上げられていました。『練習は裏切らない』という言葉もありますが、しっかりとした準備は、技術や戦術だけでなく、大きな自信も生み出していたのではないかと思います。今回の学校だよりは、「さらなる高みへ」というタイトルで「変わらぬ志を」と「質を高く」ということについて生徒のみなさんに伝えたいと思います。

1・2年生は、新人体育大会が終了して1ヶ月が経とうとしています。自分たちとしては、満足や納得のいく結果ではなかったという声も聞いています。「次こそは…、学校総合では…」という意気込みも聞いています。では、大会終了直後の気持ちや決意が今も変わらずにいるのでしょうか。何年も前のことですが、ある指導者の方が「悔しいと感じたとき、次は頑張ろうと誰もが思う。でも、一時の感情では続かない。大事なのは、その気持ちを維持して取り組めるかだ。本気でなければ続かない。」という話をされました。ここで、もう一度自分、自分たちに問うてください。**あの時の志は今でも変わらずにあるのか…**を。

そして、次にその指導者の方は、「気持ちだけでもだめ、何をするのか、なぜ必要なのか、そして何を求めるのか」がはっきりした練習をすることが大切と話されました。そういえば、ラグビー日本代表ヘッドコーチのエディー・ジョーンズ氏は、**「JAPAN WAY」という題で「日本人は身体が小さいので、パスの回数を増やし、スペースを作ることが大事です。それが、私が提唱するスタイルの根本です。そのひとつにハードワークと規律を重要視することがあります。さらに、スポーツ科学も取り入れています。要は1日に5時間も6時間も練習するのではなく、もっとスマートにトレーニングをするのです。」**と書いてありました。中学生の部活でも同じことが言えますか。例えばダッシュ、君たちなら、練習の中でどの位の距離のダッシュが一番いいと思いますか。私は、種目によって違いはありますが、ほとんどの種目では、10m前後と言われています。場合によっては最初の1歩という競技もあります。このように、ダッシュひとつでも競技性に応じた練習が必要だと思います。かなり前のことですが、私が指導者講習会で「基礎を身に付けるには量が必要です。でも、次の段階の練習は、試合のなかで起こる場面を想定して練習をすることも大切です。ですから、基礎や型などの確認は別にして、常に動きの中で練習することも必要です。」という話もありました。要するに、自分たちのよさを知り、必要なものは何かを理解し、実践を意識した**質の高い練習**をすることが重要だということだと思います。

学校総合体育大会まで、まだ6ヶ月もあると思いませんか。昼間が短い季節が続きます。6時まで活動ができる期間は4・5月の2カ月です。残りの4か月をあの時の気持ちを忘れず、短い時間の中でも質の高い練習ができるかが結果に結びついていくと思います。練習をはじめ、様々な面から君たちに一番よいものを顧問の先生は伝えてくれます。その指導をしっかりと受け止め、真剣に部活動に取り組んでください。君たちのさらなる成長を期待しています。

1・2年生中心の話題になってしまいましたが、3年生の進路決定に向けた学習も同じことが言えると思います。基礎がまだ必要な人は量（時間）です。基礎ができている人は質（重点化した学習）です。今の自分の状況を見つめ直し、やるべきことをしっかりとやっておくこと、その準備が本番での自信と結果につながります。3年生には、自分が望む未来の扉を自ら開くことを期待しています。